三鷹市立第四小学校　令和8年度 【図画工作】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	【成果】 ○楽しく伸び伸びと表現している。 ○友達と作品を見合って、良さや工夫に気付くことができている。 ○制作の時間をしっかりと確保することで、存分に活動に取り組むことができた。 【課題】 ○経験差や能力差があり、課題への取り組み時間や必要な支援に差が大きい。	【現状】 ○意欲的に楽しく活動に取り組んでいる。 ○季節や行事に合わせて児童にとって魅力的な単元を設定し、身に付けてほしい力を意識しながら、造形遊びや創作活動を行うことができた。 【課題】 ○のりやはさみの使い方など、経験が不足している児童が少なくない。作品作りを通して、絵の具・クレパス・はさみ・のり等の道具の基本的な使い方を定着させていく。 ○経験差や能力差があり、課題への取り組み時間や必要な支援に差が大きい。 ○アイデアが思い浮かばない児童や、思い描いた通りにできないと受け入れられない児童、うまくいかないと投げやりになる児童などが見受けられる。	【習得と活用】 ○様々な材料や素材、いろいろな道具に触れながら力を伸ばすことができるような単元設定を行う。 ○友達の作品の良さを具体的に捉えることが難しい児童もいるため、制作の際にポイントとなる箇所や作品を見る視点を明確に提示する。 【補充的・発展的な指導】 ○発想が思い浮かばなかったり、経験不足で課題を捉えられない児童には、友達の作品を見たり、手本にしたりして、考えを豊かにしていく。 ○自分の作品や造形遊びや制作活動そのものを好きになるように、活動を振り返ったり友達とよいところを伝え合ったりする時間を確保したり教師から価値付けたりする。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎お互いのよいところを認め合ったり伝え合ったりする時間をもち、思考力・判断力・表現力を高める。
第2学年	【成果】 ○道具の安全な使用方法を指導することで、身近な道具の扱いはできるようになった。 ○手本を見せたり学習の流れを可視化したりすることで、一人一人が見通しをもって学習に取り組むことができた。 【課題】 ○友達の作品を見て、その良さを感じたり言葉にしたりすることが苦手な児童が見受けられる。	【現状】 ○意欲的に図画工作の学習に取り組む児童が多い。 ○様々な材料を用意して工夫して作品に使用することで、素材の特徴やよさを捉え作品に生かすことができている。 ○道具を繰り返し使用することで道具を正しく効果的に使う姿が見られるようになってきた。 【課題】 ○どんなものを作りたいか、イメージを膨らませきれず途中で諦めてしまったり、適当に終わらせたりしてしまう児童が一定数見られる。 ○制作時間に差がある。 ○友達の作品のよさを感じたり言葉にしたりすることが難しい児童がいる。	【習得と活用】 ○使用経験の少ない道具の使用回数を増やし、道具に慣れることで安全に正しく道具を使えるようにする。 【補充的・発展的な指導】 ○活動にイメージを膨らませることが難しい児童には、教師が作成した例を提示したりいくつかの活動から選択したりできるようにし、個別で支援をする。 ○活動内容とその時間についてスモールステップで提示することで、児童が見通しをもち、自分で修正しながら時間内に十分活動できるようにする。 ○友達の作品を鑑賞する際には、大事にする観点を示す。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎持ち帰って飾れたり遊べたりする作品を作り、より豊かな家庭生活を目指す。
第3学年	【成果】 ○用具の安全な使用方法を指導することで、身近な道具の扱いはできるようになった。 ○見通しを立てるために参考作品の紹介やアイディアスケッチを取り入れたため、作品づくりの早い段階からイメージを持てるようになった。 【課題】 ○友達の作品を見て、よい所を言葉にするのが苦手な児童がいる。	【現状】 ○意欲的に楽しく活動に取り組める児童が多い。 ○様々な材料を用意し工夫して作品に使用することで、素材の特徴をとらえ生かすことができた。 ○作品作りを通して、絵の具・はさみ・のり等の道具の基本的な使い方が定着してきた。 【課題】 ○ホッチキスやカッターなどの用具を使用経験の少ない児童が多く、用具として正しく使用できるようにするために使用機会を増やしていく必要がある。 ○時間内に作品の制作が終わらない児童がいる。逆に作品としての完成度が低いまま、できたことにしてしまう児童もいる。 ○友達の作品のよさを言葉や文章にするのが苦手だったりする児童がいる。	【習得と活用】 ○表現のための手段、用具・材料の特性について個別に指導する。 【補充的・発展的な指導】 ○わかりやすいように視覚的な資料を用意・提示したり、実演を交えながら説明する。 ○多様な表現を認め、より高い表現を認める。一人ひとり個別に対応した指導を心がけ、一斉指導や個別指導の充実を図ることで、よりよい作品づくりができるようにする。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎木工用具（糸ノコギリや錐など）の安全な使用に留意し、表現をより豊かにする。 ◎実際に遊んだり、家庭に飾れる作品をつくり、より豊かな家庭生活を目指す。 ◎自ら課題を見つけ、自ら解決しようとする自律的な学習態度を育成する。
第4学年	【成果】 ○制作過程では、教師の提示資料を活用したり、友だちの作品のよさや工夫点に気付いたりしながら、表現力を高め合った。終末の鑑賞では自分の作品に愛着を感じたり、他者の作品のよさを認め合える時間を確保した。 ○学習意欲を高めるために、多様な用具や題材を掲示した。 ○自分らしい発想で、試行錯誤しながら創意工夫できる題材を提示し、多様な表現取り組むことができる雰囲気づくりに努めた。 【課題】 ○自身の作品を振り返ったり、友だちの作品を鑑賞した時など、具体的な言葉での記述が思うようにいかない場合がある。	【現状】 ○様々な技法を紹介し、工夫して作品に使用することで、個性を生かした作品づくりができた。 ○作品づくりを通して、絵の具・はさみ・のり等の道具の基本的な使い方が定着してきた。 ○お互いの作品を鑑賞し、自分の作品の良いところや、ほかの人の作品の良いところを発見した。 【課題】 ○楽しく活動しているが、自分にとってよりよい表現となる前に、一応の完成で満足し、深まらずに題材を終えることがある。 ○アイデアを形にするためにどういう手順で作業をすればよいか分からない児童がおり、個別指導が必要である。	【習得と活用】 ○失敗してもよいこと、試行錯誤しながら考えつくることの大切さを伝え指導する。 【補充的・発展的な指導】 ○途中の段階での鑑賞なども適宜行い、表現が深まる様子を共有する。 ○必要とされる技能に個人差があるので、個別の指導によって理解を深められるように指導する。 ○作品の注目するポイントを確認したり、手本となる振り返りや鑑賞の書き方を提示したりしながら、よい書き方、振り返り方を定着させていく。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎題材で使用する材料の性質や、用具の使い方を十分に理解し、表現したいことを試行錯誤する時間を設定する。 ◎彫刻刀を使っての制作に安全に留意して取り組み、表現をより豊かにする ◎ワークシートなどを活用し児童自身の考え方や気付きなどを整理できるようにする。
第5学年	【成果】 ○作品づくりを通して、表現するための基礎基本（画材・道具の基本的な扱い、表現方法）や造形的な見方・考え方を深めた。発想を豊かに広げるための題材設定を行った。 ○自分らしい発想で、試行錯誤しながら創意工夫できる題材を提示し、失敗しても安心して取り組むことができる雰囲気づくりに努めた。 【課題】 ○作品づくりを通しての思いや友達の作品を見ての感想を文字で振り返る際、具体的な言葉で記述することがまだ難しいようだ。	【現状】 ○題材に対する興味関心など、授業に取り組む意欲が高い。新たな用具や素材を積極的に、安全に正しく活用することができる。 ○前学年までに使用した用具や材料の経験を活かし、発想を広げ表現を創意工夫して表現することができる。 【課題】 ○表したいことやものが思いつかなかったり、試行錯誤しながらつくる力が弱かったりして、作業時間が十分取れず、作品を深めることができない児童がいる。	【習得と活用】 ○前学年まで学んだ表現方法を活かし、用具・素材の特徴を捉え構想し、見通しをもって表現する力を育てるために、計画的に題材設定を行う。 【補充的・発展的な指導】 ○提示する材料や提示の仕方を工夫し、児童が自ら表し方を思い付き、積極的に取り組めるようにする。 ○作品の注目するポイントを確認したり、手本となる振り返りや鑑賞の書き方を提示したりしながら、よい書き方、振り返り方を定着させていく。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎作例を紹介したり、題材で使用する材料の性質や、用具の使い方を十分に理解し、表現したいことを試行錯誤する時間を設定する。 ◎児童が表現したいイメージを具現化するために、じっくり考え工夫できる時間を設定し、以降の創作活動を計画的に取り組めるようにする。 ◎ワークシートなどを活用し児童自身の考え方や気付きなどを整理できるようにする。
第6学年	【成果】 ○自分らしい発想で、試行錯誤しながら創意工夫できる題材を提示し、失敗しても安心して取り組むことができる雰囲気づくりに努めた。 【課題】 技能を身に付け、自分の表現したいものをつくることができる児童がいる一方、技能が十分に身に付いておらず、自分のもつテーマを表現できない児童がいる。	【現状】 ○題材に対する関心意欲や授業に取り組む意欲が高い。新たな用具や材料に対しても安全に正しく活用することができる。 ○前学年までに使用した用具や材料の経験を活かし、発想を広げ表現を創意工夫することができる。 【課題】 ○楽しく活動しているが、自分にとってよりよい表現となる前に、一応の完成で満足し、深まらずに題材を終えることがある。 ○作品のテーマと技能が結びつかず、作品を深めることができない児童が一定数いる。	【習得と活用】 ○前学年まで学んだ表現方法を活かし、用具・素材の特徴を捉え構想し、見通しをもって表現する力を育てるために、児童との対話をしながら、アイディアの段階から、完成を意識できるようにする。 【補充的・発展的な指導】 ○児童と対話をしながら、アイディアやそれを表現するための手段を明確にする。 ○作品の注目するポイントを確認したり、手本となる振り返りや鑑賞の書き方を提示したりしながら、よい書き方、振り返り方を定着させていく。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎題材で使用する材料の性質や、用具の使い方を十分に理解し、表現したいことを試行錯誤する時間を設定する。 ◎児童が更に納得のいく作品にするために、じっくり考えたり工夫できよう、時間設定を考える。 ◎ワークシートなどを活用し、児童自身が自分のイメージや考え・気付きなどを再発見し、整理できるように工夫をする。